

「腫瘍遺伝学セミナー」を開催

2013年7月22日

7月22日（月）にがん進展制御研究所棟4階会議室において、米国アルバート・アインシュタイン医科大学発達分子生物学 北村剛規先生を迎え、「MAMマクロファージによる乳がん転移促進機構」と題して、がん進展制御研究所腫瘍遺伝学セミナーを開催しました。

セミナーでは、乳がんの転移を促進する転移関連マクロファージ（metastasis-associated macrophage: MAM）について、最新の知見をおりまぜて講演して頂きました。マクロファージによる転移促進の分子機構や、Jeffrey Pollard研究室の研究について学ぶよい機会となりました。

セミナーには、所内外の研究者並びに大学院生ら約40名が参加し、講演途中でも沢山の質問が出て、活発な意見交換が行われ、意義深い講演会となりました。



MAMマクロファージによる乳がん転移促進機構

講演者

Albert Einstein College of Medicine
Department of Developmental and Molecular
Biology

北村 剛規 先生

日時：平成25年7月22日(月) 16:30～17:30

場所：金沢大学がん進展制御研究所 4F 会議室

北村剛規先生は、Tumor-associated macrophage (TAM)の概念を確立したJeffery Pollard博士の研究室にて、乳がん転移におけるTAMの役割について研究されています。Pollard研究室では、乳がん転移に関与するMetastasis-associated macrophage (MAM)の動態について明らかにし (Nature 475: 222, 2011)、北村先生はさらにMAMとケモカインシグナルの関係について解析しています。

セミナーではPollard研究室での最新の知見について紹介して頂きます。皆様ふるってご参加、ご討論下さい。

連絡先：大島 (がん進展制御研究所・腫瘍遺伝学研究分野 内線6760)